

「学ぶ力」	
実態	課題
<p><b>成果</b></p> <p>◇札幌市全体の共通指標に基づくアンケート結果から、「学習で困っている友達に声を掛けたり一緒に考えたりするようにしている児童や人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある児童が多い」という実態がある。協働的に学び合う大切さを感じていると考える。</p> <p>◇札幌市全体の共通指標に基づくアンケート結果から、「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている児童が多い」という実態がある。学習に対する姿勢が確立されていると考える。</p> <p>◇札幌市全体の共通指標に基づくアンケート結果から「新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている」の数値は昨年度より上がった。課題探究的な学習の中で振り返りや学びを次に生かす活用の力を大切に、主体的に学び続ける子どもの姿を目指していく。</p>	<p><b>課題</b></p> <p>◇札幌市全体の共通指標に基づくアンケート結果から「自分が必要とされていると感じる」の数値が低く、課題として取り組んでいるが大きな変化は見られない。教師や保護者による普段の言葉掛けとともに、様々な場面で自己有用感が高まるような指導を継続していく。</p> <p>◇札幌市全体の共通指標に基づくアンケート結果から「自分の意見を進んで発言しようとしている」の数値が昨年度より上がっているが、十分とは言えない。「～たい」を大切に授業づくりを意識して行うことで、自分の意見を進んで発言する子どもの姿をねらっていく。</p> <p>◇札幌市全体の共通指標に基づくアンケート結果から「自分で計画を立てて勉強している」の数値は昨年度より上がっているが、宿題以外に自ら課題を決めて取り組む習慣があまり身に付いていない。自分で考える経験を積み重ねたり、家庭と連携したりしながら、取組をさらに進めていく。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇相手に関わろうとしたり、認め合ったりという「他者への承認」「他者からの承認」に関する数値が高い。しかし、自分の学びや価値について肯定的に受け止めたり、今後の自分を見据えて能動的に行動していこうとする意欲が低かったりするなど「自己承認」については数値が低い傾向にある。自分に自信をもてるような場や価値付けが重要となる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

主体的に学び続ける力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1)研究副主題「分かる・できる・楽しい」が実感できる授業の実現 →授業研究の視点（「～たい」を生むために、学び合いを充実させるために）に基づいて、日々の授業改善を行う。 →協働的な学び（ペア、グループ、小交流等）と個別最適な学び（個に応じた課題設定、問い返しの工夫等）の実現のため授業中のアプローチを工夫する。</p> <p>(2)学校で共通の板書のマークの活用（?・?・?・!・!・!） →問いや焦点化された問い、本時の価値を全体で共有し、次時への見通しや活用、場面の広がり大切に授業を実現していく。</p>	<p>①「～たい」を実現する学級活動の充実 →学級会の進め方の共通理解や係活動の充実を図る。</p> <p>②「～たい」を実現する児童会活動の充実 →委員会の進め方の共通理解や、学校の諸課題を発見し解決するサイクルを回すために、教師が意図的・計画的に指導していく。</p> <p>③異学年交流や挨拶を広げる取組の場の設定 →ふれあい活動やあいさつ運動の実施。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇主に①について、複数のツールの中から適当なものを、児童自ら選択できるような環境を整備する。また、教職員間で発達段階別ICT活用技能目標を設定し、活用することで発達段階に応じたICTの活用を学校全体で推進していく。</p> <p>◇主に②について、クラスルームを用いて事前に情報共有を行ったり、様々なアプリを用いて活動の周知や準備に生かしたりしていく。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

